

# St. Luke's International University Repository

地域包括ケアにおける協働:  
市民や多職種と協働したチームに関わる教育・実践

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 川上, 千春, 浅田, 美和 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.34414/0002000151">https://doi.org/10.34414/0002000151</a>

## 地域包括ケアにおける協働 ——市民や多職種と協働したチームに関わる教育・実践——

川上 千春<sup>1)</sup>，浅田 美和<sup>2)</sup>

わが国は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行し、2023（令和5）年9月15日現在、高齢化率は29.1%となった（総務省、2023）。このような状況のなか、団塊の世代が75歳以上となる2025（令和7）年以降は、国民の医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれている。このため、厚生労働省においては、2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもと、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を推進している。地域包括ケアシステムの構築のためには、行政や保健、医療、介護、福祉サービス提供者だけでなく、住民も含んだこれらの人々との連携や協働が必要不可欠である。そのようななか、看護職は市民や多職種と協働したチームにかかわることが求められ、そのための教育・実践は重要な課題である。

本シンポジウムでは、市民や多職種との協働を育む看護学部の教育、および地域や病院での多職種協働の取り組みの実際について4人のシンポジストから情報提供していただいた。それぞれの実践から、どのように協働が湧き上がり、生み出され、さらに発展するのか。また協働の教育・実践はどうあればよいのかについて議論を行った。

一人目の登壇者である中川泉氏（常盤大学）は、「北茨城市と協働した学部『地域包括ケア演習』の取り組み」と題し、大学教員間での学内協働体制と北茨城市との現地演習体制の構築過程、および地域包括ケア演習の実際と学習効果について報告された。まずは地域包括ケアシステム内では、看護の全領域が展開しているという前提条件を踏まえて大学教員間の学内協働体制を整備し、次に北茨城市と大学間との連携体制の構築をするという二重の協働を実践していた。そして学生が自分たちにもできることがあると実感できる演習方法を展開し、地域包括ケアシステムを重層的に学べることができていると評価していた。

二人目の登壇者の菊田文夫氏（聖路加国際大学）は、

「地域社会の中での協働やチーム作りに関する教育活動」と題し、学生と行政職員・医療専門職者が協働し、川上村の村づくり活動を行っている様子を報告した。その活動には、行政職員が学生を同じ目標に向かう同志として迎え入れ協働していることに、教育活動におけるチームづくりができている様相があった。

三人目の登壇者の阿部智子氏（訪問看護ステーションけせら）は、「他職種や市民と協働して地域を支える看護」と題し、地域にて他職種と連携しながら展開している事業（だれでもが集える居場所づくりとしてのコミュニティカフェ、ホームホスピス、文京区医療職交流会など）の活動について報告された。自分たちが楽しいと思うことの実践が事業の創設につながり、さらには人と人とのつながりや協働が人を元気にし、地域力も高まっていくことであると話された。

最後の登壇者である岡村大介氏（聖路加国際病院）は、「病院と地域をつなぐ多職種協働の取り組み」と題し、2019年より中央区内の医療介護福祉専門職のネットワーク形成のために発足した「かもめケアネット」の取り組みの紹介を中心に報告された。病院が地域とつながることの重要性はもちろんのこと、自分たち病院職員だけでは手が届かない見えない部分をとりこぼさないようにするためには、どのように病院が地域とつながっていくべきなのか、また病院が地域とつながっている社会を作るためにはどうすべきか問題提起された。

4人のシンポジストから語られた地域包括ケアにおける協働は、「概念」としての「協働」ではなく、それぞれの実践の場の中で、市民や多職種同士が人と人とのつながりを通して、対等な関係を築き、同じ目的や目標を持ちながら実際に体験をすることであった。そしてこのプロセスは、楽しさややりがいといった前向きな経験を伴うものであり、教育・実践ともに共通しているプロセスであるという認識に至った。

### 引用文献

総務省統計局（2023）：統計トピックス No.138 統計からみた我が国の高齢者—「敬老の日」にちなんで—。 <https://www.stat.go.jp/data/topics/pdf/topics138.pdf>（2024/1/16）。

1) 聖路加国際大学大学院看護学研究所

2) 聖路加国際病院